

真間釈迦仏御供養逐状

釈迦しやか仏ぶつ御造ごぞう立りゅうの御事おんこと。無始曠劫むしこうこつよりいまだあらわ顕けんれましまさぬ己心こしんの一念ねん三千さんぜんの仏ぶつ、造りつく顕あらわしますか。はせまいりてをがみまいらせ候そうらわばや。
欲よく令衆りやうしゆ生開じやうかい仏知見ぶつちけん乃至ないし然我実成ねんがじつじやうぶつちらい仏已来これなりは是也。
但しただ仏の御開眼ごかいげんの御事は、いそぎいそぎ伊よい(豫)房ぼうをもてはたしまいらせさせ給たがひ候そうらへ。法華經ほけきやう一部ぶ、御仏みほとけの御六根おんこんによりみ入いれまいらせて、生身しやうしんの教主きやうしゆ釈尊しやくそんになしまいらせて、かへりて迎むかひ入いれまいらせさせ給たがひ候そうらへ。
自身じしん並ならびに子こにあらずばいかんがと存ぞんじ候そうら。御所領ごしやうりやうの堂どうの事等ことどうは、大進だいしんの阿闍梨あじやりがききて候そうら。かへすがへすをがみ結縁けちえんしまいらせ候そうらべし。
いづぞや大黒だいこくを供養くやうして候そうらし其後そのちより世間せけんなげかずしておはするか。此度このたびは大海だいかいのしほの満みつるがごとく、月つきの満まんずるが如ごとく、福ふくきたり命いのちながく、後生ごしやうは靈山りやうぜんとおぼしめせ。

九月がつ二十六日にち

日蓮にちれん

〔花押〕

進上しんじやう 富木殿御返事ときどのごへんじ